

# コーディネーター概論

独立行政法人  
国立特殊教育総合研究所  
後上鐵夫

# サラマンカ宣言と インクルージョン

1994年（平成6年）6月、スペインのサラマンカでユネスコの「特別なニーズ教育に関する世界会議」が開催  
世界の教育は、障害の有無にかかわらず、全ての子ども一人一人のニーズに対応しなおかつ同じ年齢の子ども達を一体とする場で教育すべきである

# サラマンカ宣言と インクルージョン

個々のニーズに応じた教育を分け隔て  
のない場で実践するという考え方を  
「インクルージョン」即ち「全ての子  
ども達を一体として包み込む教育」と  
いう

# 特別支援教育とは

子どもたち一人一人のもつ独自の課題が「教育的ニーズ」、その子どもに応じた働きかけが広い意味での「特別支援教育」

特別支援教育は小中高又は盲聾養護学校という学校種を越えて、どの学校でも行わなければならない、個々の子どもを大切に  
する学校教育そのもの

# 特別支援教育とは

我が国の教育は主として集団指導法で集団意識や社会性の育成、指導の効率性等を培いつつ、教師は子どもの課題を把握してその子に応じた指導を模索し実践してきた。

しかし、こうした働きかけは組織だったものではなく、教員がまさに個人的に対応したもので、教師の力量に左右された。

指導に当たる教員を支援するシステム作りが必要

# 文部科学省

特別支援教育とは、これまでの特殊教育の対象の障害だけでなく、その対象でなかったLD, ADHD, 高機能自閉症も含めて障害のある児童生徒に対してその一人一人の教育的ニーズを把握し、当該児童生徒の持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うもの

# 特別支援教育の背景にあるもの

特別な配慮の必要な児童生徒；LD、  
ADHD、高機能自閉症等指導の困難  
な子、心因性の課題を抱える子、集団  
に適応しにくい子、対人関係の取りに  
くい子ども等

こうした子どもは優先的に位置づけ、  
様々な支援を行うことが必要

# 特別支援教育の背景にあるもの

今いる学級で、伸び伸びと学校生活を送るため、教員等の特別な配慮のあり方を考えることが急務

「学級崩壊」などの学校教育の抱える今日的な課題を支援教育の視点から見直す必要

# 特別支援教育の目的

- 1) 1人ひとりの子どもの障害とニーズに応じるために、特殊教育が蓄積してきた知見と方法を活用する
- 2) 子どもの発達を配慮しながら、学級集団を育てる
- 3) 子どもの特別な教育的ニーズに応じながら、学校生活や家庭生活等を支援する教育相談を実施する

# 特別支援教育の推進

個々のニーズを的確に把握し、個別の教育支援計画を作成する(個別の指導計画、個別の移行計画)

実際に関わる教員チームを編成し、学級や担任を支援する校内支援システムを作る(校内委員会の設置)

教員等の意識変革と研修の確立

リソースルーム、カウンセリングルーム、通級指導教室の活用

# 特別支援教育の推進

チームティーチングや交換授業の活用、教育ボランティアの導入

教育相談のあり方；児童生徒や保護者へのカウンセリングや教職員へのコンサルテーションを通して適切な支援を提供し、問題解決を図る

これからの特殊教育は適切な指導の場の提供ではなく、個々の子どものニーズに応じたサービスの提供

# 教育的サービス

サービスはおまけではない。サービスとはサービスの種類と内容に応じて専門的な教育と訓練を受けた者が、相手のニーズを満たすことにより相手の人生を豊かにすること

# セルフエスティーム

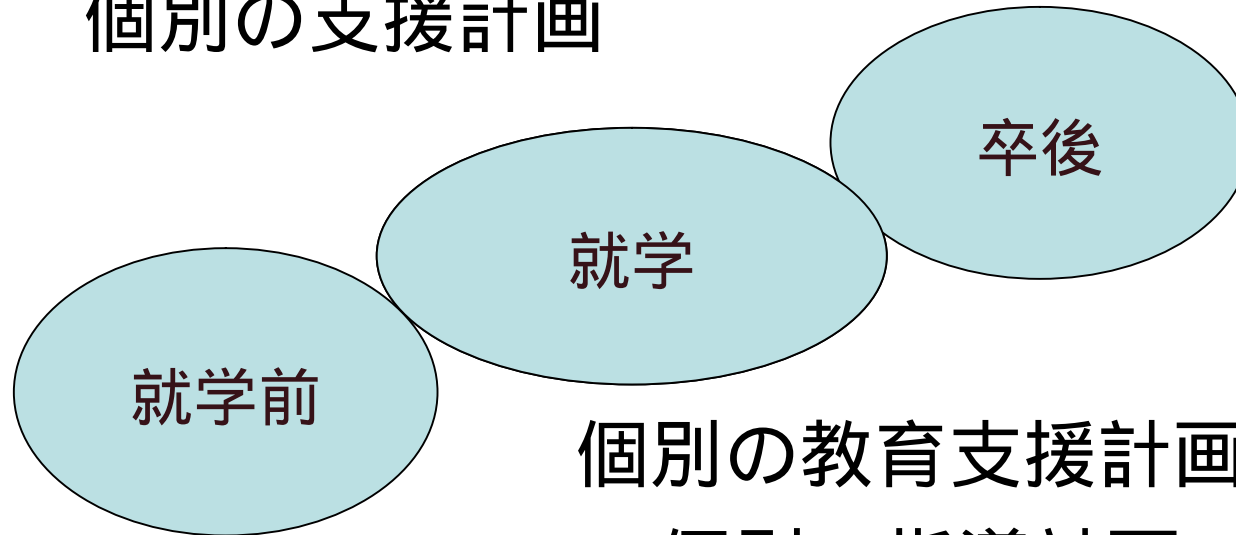
自分が価値のある人間であり、自分を大切に思う事がself-esteemの意味。

自己評価とも訳されている。

これが低いと投げやりになり、向上心が薄れていき、これが高いと努力して何かをやり遂げるという自己達成能力が高まる。

# 個別の教育支援計画

個別の支援計画



個別の教育支援計画

個別の指導計画

個別の移行計画

# 「個別の教育支援計画」の作成

## (1) 子どもを多面的にとらえる

- ・ 個別の教育支援計画は一人の先生で作るものではない。さまざまな領域・専門家から情報を得て作るもの。
- ・ 今までの自分の見方が変わってくる。
- ・ 子どもを見る目を培う。
- ・ 子どもを多面的にとらえていける指導者自身の力量を高める

# 「個別の教育支援計画」の作成

- (2) 教師がいろいろの物差し(スケール)をもつ
  - ・ 教師一人ひとりがもつスケール、チェックリストを共有化
  - ・ 子どもの見方・見え方が変わり、教師の教育力、子どもを見る目を変える大きなエネルギーとなる。
- (3) 教育の継続性を図る
  - ・ 独りよがりの教育をしないために
  - ・ 移行期の教育の検討

# 「個別の教育支援計画」の作成

- (4) 集団における高次のかかわりあいを培う  
ライフステージを描くことが必要。
- (5) 親のニーズが反映できる  
親の願いと担当者の日々の実践が絡み合っ  
ているかが重要
- (6) インフォームドコンセント(informed-consent知識  
のある同意)とアカウントビリティ  
(accountability 責任のあること、責務)

# 「個別の教育支援計画」の作成

- (7) ライフステージでの今を考える
- ・ 家庭への支援（ドクターショッピングと保護者の子育て支援）
  - ・ 基礎的な能力の開発（子どもの身辺自立と躰のスキル）
  - ・ 将来を見据えた指導（思春期以降を見据える、ADLからQOLへ）
  - ・ 引き継ぎ重視の援助（卒後のプログラム）
  - ・ 生活基盤の整備（グループホームなど）

# 「個別の教育支援計画」の作成

- (8) 学校以外の子どもの生活活動も目標とする  
子どもの生活世界をきちんととらえることの  
大切さ

## 「個別の教育支援計画」の作成意義

ライフステージにおける一人一人の教育的なニーズを知り、そのニーズに応じた指導を適切に行うため

# Plan-Do-See

P l a n ; 全員参加による会議で活発に討論しあい  
納得のいく目標・方針・役割を決定

D o ; 各人が最大限の自由裁量を与えられ、思い  
切って仕事する。相互に援助活動を促進し、  
目標達成に努力する

S e e ; 期末に自己評価し、自己啓発に結び付ける、  
話し合いによる評価をし、能力伸長を図る

率直にいえる・聞ける『雰囲気』作り

- コミュニケーションが協力関係を作る

# 保護者支援の基本

不安や課題解決をするための話し合いと情報提供

障害受容するには様々な心の葛藤がある。これを支えていく活動

Therapeutic Counseling(治すカウンセリング)から Developmental Counseling(育てるカウンセリング)へ

# 保護者への支援活動(教育相談)

- 1) 保護者が子どもを正しく受け止めるための支援活動
  - ・ 関係諸機関からの情報収集と  
有効な活用：個人情報保護
  - ・ 社会資源の有効利用：保護者のサポートやドクターショッピング防止の上からも大切

# 保護者への支援活動(教育相談)

## 2) 子どもの環境を調整し

### 育ちに即した支援活動

- ・点から線へ、線から面へ: 支援活動の姿
- ・一期一会の実践
- ・子どもや保護者にとっても分かりやすい環境:  
 応答的環境と気付きの指導
- ・子育てに応じた保護者の悩み、つらさへの共感

# 保護者への支援活動(教育相談)

## 3) 保護者のニーズに応じた支援活動

- ・母親としての「母親」と  
クライアントとしての「母親」への対応
- ・家族の中での「母親」の支援：  
母親を家族からも地域からも孤立させない支援

# 保護者への支援活動(教育相談)

## 4) 子どもに関する情報センターとしての支援

- ・医療、福祉、教育、就労等さまざまな情報を支援活動に有効に生かす
- ・縦のネットワークと横のネットワーク
- ・一生懸命効果と知識と技能
- ・心に対するアプローチには、知識、体験、感受性、伝達力の4つが必要

# コーディネーター機能

複数の機関にまたがるコーディネーター機能

多様な援助者による活動のコーディネーション

乳幼児から成人までの養育・教育のコーディネーター機能

学校間ないし学級間のコーディネーター機能

子どもと環境との折り合いに注目

個別の教育支援計画を立てる上でのコーディネーター機能

# 特別支援教育 コーディネーターの役割

## 1. 校内の関係者や関係機関との連携

校内関係者との連絡調整

関係機関との連絡調整: ケース会議

保護者との関係作り

校内委員会

学習面や行動面で特別な教育支援を必要とする  
子どもに気付く

支援の必要な子どもの実態把握を行い、学級担  
任の指導への支援方策を具体化する

# 特別支援教育 コーディネーターの役割

保護者や関係機関と連携して、個別の教育支援計画を作成する

校内関係者と連携して個別の指導計画を作成する

全教職員の共通理解を図る。そのための校内研修を推進する

専門家チームに判断を求めるかどうかを検討する  
保護者相談の窓口となる。また、理解推進の中心となる

# 特別支援教育 コーディネーターの役割

## 2. 保護者に対する相談窓口

保護者の気持ちの受け止め

・指導でなく受容 = カウンセリングマインド

保護者ととともに考える対応策

・保護者との協働

・子どもを交えながら双方が協力して子ども  
の支援を実施

保護者への支援体制

# 特別支援教育 コーディネーターの役割

## 3. 担任への支援

担任の相談から状況を整理する

・担任の気づきから、学年会等での協議やコーディネーターとの相談調整の中で状況を整理

担任と共に行う子どもの理解と支援体制

・校内委員会での実態把握や判断から対応策の検討したり、校内指導体制を整備する

# 特別支援教育 コーディネーターの役割

## 4. 巡回相談や専門家チームとの連携

巡回指導員の役割: 1) 子どもの行動観察、検査 2) 担任や校内関係者に支援・対応への具体的助言、体制整備に関する助言等

3) 保護者への相談と支援、情報提供 4) 専門家チームとの連携の必要性の判断

専門家チーム: 軽度発達障害等か否かの判断、望ましい教育的対応についての専門的意見等の提示

# 特別支援教育 コーディネーターの役割

## 5. 校内委員会での推進役

校内の状況の把握と情報収集の推進  
担任の気づきの把握、保護者のニーズ、  
リソース情報の把握

ケース会議の開催と校内委員会

個別の教育支援計画(指導計画・移行計  
画)作成への参画

校内研修の企画と実施

# 実践事例

## 1) 巡回相談員との連携から

- ・校内委員会の立ち上げと専門家との連携により、担任一人が悩む事態が回避できた。
- ・専門家との連携により、とかく否定的に見がちな視点が改められ、長期的な展望ができるようになった
- ・専門家チームの体制が学校にとって大きな安心となる

# 実践事例

## 2) 校内支援体制と指導形態の工夫から

問題の発見 ・保護者からの相談 ・小学校からの申し送り ・担任の気づき(サポートア  
ンケートと記録シート)

支援体制の決定 ・外部機関との連携 ・校  
内委員会(チェックリスト、個別記録シート)

支援活動の開始 本人、保護者や家族、担  
任等、コーディネーターによる協働(援助チー  
ムシート、援助資源チェックリスト)

# 個々に応じた指導マニュアル

「Aちゃんバージョンの生活・学習指導マニュアル」の作成 = オーダーメイド・マニュアル

課題に対し、実際的に役立つことを具体的に作成

障害のある子どもや保護者や担任やクラスメートが少しでも快適な生活を過ごせるよう支援するもの

# 個々に応じた指導マニュアル

担任・障害児担当・保護者・専門家が協力  
し合って、その子どもの豊かで快適な生  
活を創るために知恵を出し合う  
生活に根ざした連携を構築

# 「あゆみノート」作成と連携

障害のある子どもを育てる過程で、保護者はその子どもの育ちに応じた課題の解決のために、地域の様々なリソースの支援を求める

より正確に、より効率よく、今まで受けた専門家からの支援・情報を提供する方法

「あゆみノート」が試作

プロジェクト研究(代表 渥美義賢)

# 「あゆみノート」作成と連携

- ・「あゆみノート」のイメージモデルは母子手帳  
「拡大版母子手帳(仮称)」
- ・母子手帳:子どもが母親の胎内で育っていく  
経緯、周産期の状態、その後の発達の経緯  
が記載
- ・必要に応じて子どもの状態や発達を知る情報  
として活用
- ・保護者が管理することで、個人情報の保護に  
十分配慮

# 「あゆみノート」の 基本的枠組み

- 1) 誕生から現在までの育ちに応じて支援を受けたリソースの一覧表
- 2) その折々の保護者の不安と願い
- 3) 医療機関で受けた支援の内容と保護者へのアドバイス

## 「あゆみノート」の 基本的枠組み

- 4) 福祉機関で受けた支援の内容と保護者へのアドバイス
- 5) 保育・教育機関で受けた支援の内容と保護者へのアドバイス及び子どもの発達

# 「あゆみノート」の 基本的枠組み

- ・ 支援機関、支援内容ごとに記載
- ・ 一冊のファイルケース：A4サイズ
- ・ 記入者：保護者と支援担当者
- ・ 記入方法：記入項目について、要領よく簡潔に記載
- ・ 記入時期：記入者の判断
- ・ ノートの管理：保護者  
保護者の意思で相談時に活用

# 「あゆみノート」の意義

障害のある子どもが受けた支援のヒストリー資料

子どもの障害や発達の変容を知る情報パック

保護者の子どもの成長に対する願いを知る貴重な資料

今後の支援教育・方法等のモデル

# 連携とは

連携とは相互に連絡を取り合っ<sup>て</sup>ものごとをおこなうこと。双方向の関わりがあ<sup>っ</sup>て初めて連携となる。

一人の障害のある子どもの様々な情報や技術が共有する。

そうして共有した情報や技術がそれぞれの場で新たに生かされる。

ここに連携の意味がある。

連携 = 情報や技術の共有

# 連携における今後の課題

子どもの育ちに応じた発達援助と支援の継続及び指導の一貫性を持続するための連携。

- ・情報と技術の共有
- ・指導内容の継続と一貫性
- ・保護者との連携：「個人情報保護」

# 連携における今後の課題

人的ネットワークで構築する連携システム

- ・人材は時として流動する
- ・そうした時に人的ネットワークが縦系となり、システムの構築が横系となってお互いの弱点を補完

= 相談支援者リストの作成

# 連携における今後の課題

## キーパーソン、キーステーションの 存在する連携

- ・誰があるいはどの機関がキーパーソン、キーステーションとなって支援し、連携の核となるかが重要
- ・スムーズな連携、必要なときに必要に応じて行える連携
- ・学校の役割の一つがここにある

ご静聴

ありがとうございました